

「らしさ」輝く附属小

第31号 令和8年 1月23日(金) 校長 森内 秀学



冬を探そう

生活科の学習では、その時期ならではのものを見つけ、季節の移り変わりを感じたり、楽しんだりする単元があります。低学年を受け持っていた頃、その単元が大好きでした。さて、すごく寒くなった冬の附属小には、どんな楽しいものがあるのでしょうか。



ハ朔（ハッサク）

左は、北斗の丘に植えられたハ朔（ハッサク）。元は、赤い花びらの山茶花（サザンカ）が植えてありましたが、毎年毛虫がたくさんつくため、安全のために抜き、代わりに小さな苗を10年前に植えました。今では、たくさんの実を付けるほど成長したので、給食の食材としても使われています。

水仙（スイセン）

冬の花と言えば、水仙（スイセン）を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。本校にも、滑り台の根元など、あちらこちらに生えています（右）。特に世話もされず、草刈りの時にはおそらく根元まで刈り取られているのに、毎年冬にはきれいな花を咲かせています。

そう考えると、植物は、可憐で健気でたくましいですね。



長葉羊蹄（ナガバギシギシ）

柔らかい葉を束ねて握ると「ギシギシ」と音が鳴るこの植物は、運動場の奥の壁際にたくさん生えています（左）。暑くても寒くてもたくましく育つこの植物は、きれいな花が咲くわけでもないので見過ごされがちですが、実はヤギの大好物です（右）。葉を持ってヤギに近付くと、フェンスを利用して立ち上がり、大喜びで食べます。



冬は、じっと息をひそめ、春が来るのをひたすら待つ静かなイメージもありますが、よく見ると、命の息吹がそこかしこに感じられます。お子さんと一緒に探してみませんか。